

市民の絆 SKF支える

「サイトウ・キネン・フェスティバル(SKF)松本」は、平成4(1992)年に松本で始まった恩師齋藤秀雄を偲ぶ世界的指揮者・小澤征爾とオーケストラによる国際音楽祭である。現在は小澤征爾の名を冠して「セイジ・オザワ松本フェスティバル(OMF)」と呼ぶ。

超一流の音楽祭が、なぜ有力候補地だった奈良を退け、松本で開催されることになったのか。松本は地元オーケストラがない、大都市でない、周りに観光地がある、といった小澤の願望にかなった場所であることに加え、県松本文化会館(現在のキッセイ文化ホール)が小澤の要請を急ぎ受け入れ追加工事して開催する、ということが大きかった。

松本での開催決定は大々的に報じられたが、青山織人はびんと来ず、「小澤さんの名は知っていたけど、へえっってなもんだ」と笑う。そんな青山のもとへSKF実行委員会から連絡が入った。松本市音楽文化ホール(島内)の開設に伴って結成されていた友の会組織「ハーモニーメイト」の会長を務めていたため、SKFの運営にボランティアとして協力してほしいというのだ。うんもすんもない。開催まで時間がなかった。したがって、初回のSKFの運営に携わったのはハーモ

元SKF松本
ボランティア協会会長

あ お や ま お り と
青山 織人 (74歳)

昭和19(1944)年、中国青島(チンタオ)生まれ。元ハーモニーメイト会長、元SKF松本ボランティア協会会長。学校法人未来学舎理事長。松本市平田西1。

私の物語

さらば
平成 12

小澤征爾と歩む音楽祭

1メイトの会員24人に過ぎず、一般対象のSKFボランティア協会が設立されたのは翌平成5年である。これから「松本方式」と称され、全国から注目される音楽祭ボランティアがスタートしたのだった。

当時ボランティアと言えば、もっぱら福祉施設の奉仕や清掃活動であり、芸術文化分野での活動をイメージする人はいなかった。青山は業務内容について実行委と契約を交わし、駐車場整理や楽器の見張りなどは当

「鑑賞に訪れるのはよその人、松本は場所を貸しているだけでは駄目、おらが街のフェスティバルを作り上げたいと思った。小澤さんも理解を示してくれた」と振り返る。リ

SKF総監督の小澤征爾を拍手で見送るボランティア。さまざまなもてなしを企画し、青山らは小澤との絆を深めた(平成4年ころ)



初、「世界のオザワを炎天下に引張りだし、子ども相手に指揮させる」とは「専門筋の叱責も受けた」。

「気障っぽく言つと、地方都市における新しい公共への挑戦だった。お上のやることにボランティアの形で市民が主体的に関わり、楽しむという挑戦」。ただ、松本人には昔から祭りを支え、楽しむ気質が息づいており、それが音楽祭ボランティアの形で蘇ったようでもあった。

青山は23年に及ぶ活動に終止符を打ち、現在は信州・まつもと大歌舞伎を支えるサポーターとして汗を流している。お練り(街中パレード)や市民キャストなどの企画に経験は生かされ、「おもしろ、おかしく、懸命に」のSKF時代のスローガンはそのままである。ずっと一緒に活動に取り組む妻の公子(62)は「手弁当で、気持ちで来てくれる人たちのだから、気持ちで返さなくてはいけない、と主人はいつも言い、私ができるのは一人一人への声がけと思つて、そうした積み重ねが長く続く秘訣と思つ」と話す。

街が街である理由は人と人の「摩擦係数」が高いこと、いろいろな人が出会い、集い、何かを始めてこそ

平成4年(1992年)主な出来事

- 【中信地方】
3月 松本市長に有賀正氏が初当選
7月 県松本文化会館が開館
9月 サイトウ・キネン・フェスティバル松本開幕
- 【国内】
6月 PKO(国連平和維持活動)協力法成立
10月 東京佐川急便事件で金丸信自民党副総裁が辞任
- 【流行語】
「ほめ殺し」「はだかのおつきあい」

文中・敬称略
(赤羽康男)

メモ サイトウ・キネン・フェスティバル(SKF)松本

平成4(1992)年9月、松本で誕生した国際音楽祭。小澤征爾総監督の下、サイトウ・キネン・オーケストラや世界的な演奏家が集い、コンサート、オペラなどを毎年行う。3年前から「セイジ・オザワ松本フェスティバル」になった。